



善正寺だより

〒512-0902

三重県四日市市

小杉町1014

浄土真宗

本願寺派

善正寺

☎:0593-31-1670

☎:0593-32-0733

掲示板法話

暇つぶしでは空しい

光に目覚めて生きたい

早いもので、今年も師走となりました。皆さん、どんな一年でしたか? 「あんなことがあった」「こんなことがあった」と様々でしょう。

そのような問いを自問自答してみたとき、『自照同人』という雑誌に紹介された小椋佳の「暇つぶし以上に」という詩を思い出しました。(渡邊晃純著「仏事こそが仏法に出遇う大切な縁」、同誌九・一〇月号参照)



もいられるでしょう。しかし、借りてきたばかりの上に自分の幸せをのせ、いつも知ったかぶりをした顔の裏で他人を責めている私、とはまさに凶星なのではありませんか? それにもかかわらず、何も分からず生きていて、時の流れに身を任せてきた一年だったなあ、と返す言葉もありません。

借りてきた はかりの上に
自分のしあわせをのせている
あなたが ぼくには悲しい
知ったかぶりをした かおのうらで
いつだって 他人をせめていて
あなたが ぼくには悲しい
たらいで生まれて
おけのななまで
何も分からず生きています
時の流れが悲しい
暇つぶし以上に何をしていますか
暇つぶし以上に何をしていますか
「暇つぶしとは失礼な!」と怒るお方

そんな晩秋の過日、「ふみ子の海」という映画を見ました。今から八十年ほど前、戦争の足音が忍び寄っていた時代の新潟県が舞台。貧しさゆえに瞳から光を失った少女が母一人子一人の貧しい家庭で、病弱な母を苦しめないように盲学校進学を諦めて、あんまの修行に出ます。厳しい修行にもひたむきに耐え、自立しようとするけなげな少女の姿に涙を誘われます。周囲の人々の温かさに支えられ、けなげに生き抜こうとするふみ子が盲学校の教師との運命的な出会いにより自立への道を歩もうとする矢先、母が病死します。荒海の彼方に亡き母の光を見つめるふみ子を眺めながら、「あの子には光が見えている。どんな人にも光が...」と語る

☆行事ご案内☆

12/1(土)夜7時半 「お内仏報恩講」 庫裡にて

ぜんざい、粗食用意、皆様お誘い合わせてお参り下さい

三重組コーラス

※12/6(木)10時半陽光苑慰問(9回目)

※12/15(土)夜7時半練習「娘達よ」「聖夜」「風に向かって」他、童謡など

◇12/31夜11時45分より「除夜の鐘」

子供はお菓子付き。誰でも撞けます。お誘い合わせてどうぞ!

◇1/1 朝9時より「元旦会」本堂で正信偈、

予告1/11午後・夜・12午前 「報恩講」

講師：藤大慶先生、13日から16日までお朝時7時

キッズサンガ・杉の子合唱団・12/8(土)午後4時月に一回子供向けの法話教室。ゲーム、紙芝居など、誰でも参加OK。無料

一縁会テレホン法話：059・354・1454へお電話を。5人の講師が週替わりで3分間の法話。24時間いつでもOK。

僧・慈光の言葉でフィナーレ。観客は皆、目頭を押さえました。
何不自由なく外界を見ることのできる我々の方こそ、大切なものが見えていないのではないか? この映画を見て、そんな恥ずかしさを覚えました。実は私自身六十年以上前、全盲一歩手前の危機から救われた体験者です。敗戦直後のどん底の中でよくも手術を受けることができ、治癒されたものだと思います。「暇つぶしのような時間を過す」ことは申し訳ないことだと、今は亡き人たちのご恩を噛み締めたことでした。来るべき新年こそ、借り物のはかりではなく、我が身の上に注がれている光に目覚めて生きる一年としたいものです。

☆十三日講・本山代表参拝☆

来年三月十三日(木)、三重組十三日講法要が当山・善正寺で勤められます。九年ぶりの修行ですが、初講(三月)に当る場合、ご本山のご正忌報恩講(一月九日〜十六日)期間中に講を代表してお参りすることになっています。今回は、一月十五日(火)にお参りしたいと考慮中です。寒中、しかも当山報恩講の直後ですが、ご参加の希望をできるだけ叶えたいと思いますので例えばマイクロバスの使用等検討します。後日、詳細をご案内する予定ですので、希望者は心積もりしておいて下さい。

ごおくん

御恩



坊守スケッチ

『思い出さずに忘れずに』



本屋の店先で、松原泰道著『人生を豊かに生きる十二章』という本を何気なく開いてみました。この本の最後のページに、亡き先代住職・波辺尚爾が書いた本の題名『思い出さずに忘れずに』のことが書かれていたので驚き、早速購入して読みました。この本は、平成三年春、先代住職の四十九日法要の記念に、現住職が親子共著という形で出版したものです。どうしてこんな変わった題名にしたかといいますが、先代の遺品を整理していた現住職が、法話ノートの最後にこの言葉を見つけて、何故かしら心引かれるものがあったからです。元来この言葉は恋愛の極致を歌い上げた都々逸でした。

「思い出さずに忘れずに」と、吉原の思い出いらんも、お客を繋ぎとめるために、よく唄ったそうです。昔から日本人は火のように燃える激しい恋愛ではなく、月や花に託して、静かにずっと思い続ける恋愛を好みました。仏教の信心も、泉の水面のように静かで、この歌に似ていると考えた先代住職が、そつとメモしたのかもしれない。

そういえば私の息子達が子供の頃、夕食後の家族揃ってのお参りで、テレビを見たがっている子供にも決して急かせることなく、お仏壇のお給仕を

して、家族が揃うのを待っていてくれました。「早くお参りをせんか!」と怒鳴られたら、きつと子供達も反発したかもしれない。晩年人口肛門をつける大手術をして、お参りができなくなった時、「おじいさん、私が得度して、教師資格も取ってお参りに行くわ」と言ったら、とても嬉しい顔をしてくれました。私の場合も「お前が行け」と命令口調で言われたら、きつと嫌々したかもしれませんが、私から気付くのを待っていてくれたのです。「待つ」ことは人を育てる上には大切な要素だと思います。

ところで百歳の松原氏は、大いなるものにお任せして人生を生き抜く智慧として、『延命十句親音経』の読誦を勧めてみえます。その九句目と十句目に「念々従心起 念々不離心」という言葉に仏教の正しい信仰のあり方を示されています。「心より起り、心を離れず」いつも心に密着している状態をいいます。「思い出さずに忘れずに」の言葉の原点は、松原氏のお導きで、死後十七年経ってやっと私に届けられ、小躍りしたくなる思いでした。

難しい仏教用語はすぐに拒否反応を示してしまいが、分かり易い喩えならばスーッと心にはいつてきます。私も寺報を通して日常の出来事の

味わいを分かり易い言葉でお届けしたいと思います。最後に晩年先代が残した私の好きな歌を紹介します。「今聞いて すぐに忘れる わが身にもお六字だけは 残る嬉しさ」お六字とは勿論「南無阿弥陀仏」のことです。

☆寄稿

四日市市 川崎 孝一

☆握手請う 吾におうなの 諸手にて つつみ返さる 陽光苑に

☆明け遣らぬ 湯に浮く秋の 碧き蝶 翅とて屍骸 志州の宿に

☆「水断」も 「松根堀り」も 懐かしぶ 死語免れて 耳朶に触れくる

☆親と子と 孫も繋がる 株下に 萎びて種親 里芋掘れば

☆霊界の 父母も愛するや 十三夜 四日市市 伊藤 孝一

☆「がばいばあちゃん」のこと寺報で拜見。貧乏にめげずに、ユーモアと智慧で前向きに光に転換した一生に感動しました。ばあちゃんのように、私も南無阿弥陀仏に出会い、力強く生きたいと思えます。

☆貧乏を なんまんだぶつで 七色の光に変えた がばいばあちゃん

三重組コーラス

※十二月六日(木) 午前十時半 陽光苑
今年二月より九回目の慰問。誰でも可
※十二月十五日(土) 夜七時半 練習
七月の別院音楽祭に向けて「娘達よ」「聖夜」「風に向かって」その他童謡など

キッズサンガ・杉の子合唱団

◇十二月八日(土) 午後四時より

お経、ゲーム、紙芝居、お菓子、新しいお友達もどうぞ、誰でもOK

◇除夜の鐘 夜十一時四十五分より 誰でも撞けます

◇元旦会 午前九時より本堂で正信偈 新年のスタートは家族揃ってどうぞ!

☆カンバ有難う☆
長沢妙子様・結城三春様・他匿名様数名よりお志や切手等を頂戴しました。

☆ホットユース☆
☆十月に福井から娘さんの嫁ぎ先の四日市へ転居された方に、新しく「縁を頂きました。パソコンのホームページで



「山口精の部屋」と検索して下さい。十八年間寝たきりの奥様を一人で介護された感動の体験談が綴られています。

☆十二月一日(土) 夜七時半、庫裡で「お内仏報恩講」皆様のお参りお待ちしております。ぜんざいや粗食を用意。

☆編集子より☆
「善正寺だより」第一六八号をお届けします。◇偽装、虚偽表示、政府高官の倫理感麻痺など、情けない事件ばかりが目立つこの頃。これでは健全な子供が育つわけがない、と慨嘆!◇だが、全ては縁によって生起する。感動を共有する「縁を結ぶ努力はできる。わが身に蒙っている「恩を思えば努力を惜しんではならない。よき新年を!合掌。

ビートルズの講演会で音楽療法士の高本恭子さんが「悲しい時には
悲しい歌を、楽しい時には楽しい歌を」とこれを同質の原理として
治療効果抜群、^とと言われました。仏教讃歌じんらんさまの三番
「このせの旅の明け暮れに淋しいのちを嘆く時南無阿弥陀仏唱えれ
ば親鸞様は寄り添って私の手を取り歩まれる」とユウラスの会共
歌う時、親鸞様がぐっと身近に感じられ、私の心は癒され癒されます。
ところで最近「女性の品格」という本が大ベストセラーになりました。「現状
を書き、約束を守る、挨拶をする、長い人間関係を大切に等、社会で働
く女性に、現代の女性らしさを教える本です。著者の坂東真理子先生
がNHKの「スタジオパーク」からこえに「は」に出演されました。聞き手は
武内陶子アナ、コガレ仏教の著者上田紀行氏夫人です。以前
大阪の講演会にご夫妻で参加され一緒に写真を撮りました。番組途
中、視聴者からの質問募集コーナーがあり、坂東先生、武内アナお二
人の大ファンである私は、生まれて初めて生番組にFAXを送りました。
5分も経たないうちに名前入りで紹介されびっくりしました。それ以
来リアルタイムに双方向の通信で番組を作成するの得、こえにな
も盛り上がるものかと実感しました。お寺の法座も「開く」二方の受
け身の姿勢だけではなく、個々の質問に答える工夫はないもの
かと思案しています。大勢の中での質疑応答は勇気がいってしり
込みしてしまいます。終了後の交流会等も一案ではないでしょうか？
12月の行事予定として「い」(王)夜々時半お内仏報恩講(庫
裡でせんざいや粗食を用意します。誘い合わせてお参り下さい)
三重組ユウラスは「い」(王)夜々半、寒さに向かう時節柄風邪
など予防もせんようにご自愛下さいませ。 合掌

平成十九年十二月 善正寺坊守輝